

シャットネラ赤潮による養殖魚のへい死について

1 要旨・目的

本県西部海域において確認されたシャットネラ属の赤潮による養殖魚の被害について報告する。

2 現状・背景

令和3年7月12日（月）に、有害赤潮プランクトン（シャットネラ属）の密度が警報レベルを超えていたため、同日付けで赤潮警報を出し注意喚起をしていたが、7月16日（金）に、養殖魚に被害が発生している旨連絡があったので、水産海洋技術センター及び西部農林水産事務所が現地確認を行った。

3 概要

(1) 赤潮発生海域

県西部海域（呉市以西）

(2) 養殖魚のへい死状況（7月19日時点）

大竹市阿多田島の養殖場の養殖ハマチ約24,700尾のうち約15,000尾がへい死（約2.5kg/尾）

(3) 調査機関

県立総合技術研究所 水産海洋技術センター（呉市音戸町）

(4) 調査結果

ア 調査地点

大竹市阿多田島（7月16日（金）調査）

イ 出現している有害種及び最高密度

シャットネラ属

最高密度 1,009 細胞/m l （3種類の合計）

シャットネラ・アンティカ、シャットネラ・マリナ、シャットネラ・ガハータの赤潮基準

注意報 基準密度…合計 10 細胞/m l 以上

発生範囲…魚類養殖漁場から 20 km 以内の地区

警報 基準密度…合計 100 細胞/m l 以上

発生範囲…魚類養殖漁場から 10 km 以内の地区

(5) 対応状況

7月16日（金）に、赤潮被害対策本部、支部、現地対策班を設置した。

赤潮被害の状況を把握するとともに、関係養殖業者及び関係漁協に対し、給餌を控えるなど被害の拡大防止に努めるよう呼び掛けている。

4 その他

(1) シャットネラ属による県内の漁業被害発生状況

令和 2年，尾道市で養殖ヒラメ 6,500 尾へい死

平成 28年，大竹市で養殖ハマチ 4,597 尾へい死

平成 16年，福山市で養殖ヒラメ等 30,030 尾へい死

平成 16年，大竹市で養殖ハマチ等 54,300 尾へい死

(2) 関連情報等

赤潮の発達状況によっては甚大な漁業被害をもたらす可能性があります。

この赤潮により魚介類が毒化するようなことはありません。

※広島県のホームページ「赤潮情報」

<http://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki/88/1170324265768.html>